

第2学年美術科学習指導案

日時 平成15年9月10日 5校時
生徒 2年1組 男子21名 女子17名 計38名
指導者 宮古市立第一中学校

教諭 高橋知志

1 単元名 CDジャケット原画の制作～私のテーマソング【領域：A表現・デザイン(イラストレーション)】

2 単元について

(1) 教材観

この教材は、生徒が「私のテーマソング」という生活に身近なテーマで主題について考え、それに迫る造形的な追求をしていくものである。20cm四方の画面にポスターカラーなどで原画を描き、それをPCに取り込んで、加工してイメージを追求したり、タイトルを効果的に入れたりして、12cmのCDジャケットに仕上げようという二つの題材の複合教材である。

表現の内容としては、中学校学習指導要領美術第2学年及び第3学年A表現(2)ーア～ウにある内容をもとにして題材を設定した。特に、「イ」の中にある「夢や想像などから独創的に発想し、造形的な美しさ、材料や用具の生かし方などを総合的に考え、創意工夫してつくる」ことを重点的にとらえて目標を設定した。

鑑賞の観点からは、表現との関連を図り、生徒同士の相互鑑賞を制作過程で意図的に組んでいくことで、お互いの意図や表現の工夫などを理解し見方を深め鑑賞の能力を向上させるとともに、個々の創造的な表現につなげることをねらっている。

形での主題追求では、「線や面の持つ感情イメージ」や「幾何学形の持つ感情イメージ」、また「平面構成の特性(対照、リピテーション、グラデーションなど)」あるいはイラストレーション的な心象表現などを学習させて、作品作りに生かしていく態度を育てていきたい。

また、色彩による主題追求では、色が持っている感情効果を十分に生かして表現させたい。その際、ドミナントカラーとアクセントカラーについても指導し、効果的な色彩表現を追求させたいと考えている。

また、表現形式については、1年次に学習した色彩についての基礎的な能力をベースにして行う平面構成的な作品づくりと、水彩絵の具によるイラストレーション的な作品づくりとで、自分自身で追求しやすい画材や技法を選択させることにした。これは、自分の表現意図に合う表現形式を主体的に選択する姿勢を大事にしていきたいからであり、このことが3年生になってからの集大成である自画像の制作に大きく関わってくると考える。

(2) 生徒観

明るく雰囲気の良い学級である。一方で、授業中の私語や忘れ物の多さ、課題がとらえきれていないことによる制作の遅れがちな生徒も見られる。このような生徒に対し個々に働きかけを継続的に行うことで、頑張ろうと制作に前向きな生徒が多くなってきた。

美術で取り組んでいく内容に関しての能力は、何を表現していいかわからなかったり丁寧な作業ができないなどいわゆる「C」に該当する生徒が2割ぐらいおり、主題追求の仕方や平面デザインにおける線の使い方等について、これまで個人指導を繰り返してきた。

表現の形式については、「イラストレーションで水彩」という選択肢を示したが、「平面構成」を選択して制作している生徒が大半となっている。生徒は、友人の取り組みから大きな影響を受け、

たり、または与えたりしながら現在を迎えている。そういう意味では、学級という大きな学習集団の中で、相互に学び合って学習に取り組むを行う形はできつつあると考えられるが、本学級の生徒への指導の課題は、そうした中でどのように生徒一人一人に個性的な表現をさせるか、という点である。

(3) 指導観

本時は色彩的な追求をしていく時間であるが、前時に多くの生徒が抱いていた「イメージに合った色彩がわからない。」という課題に対し、教師の参考作品をもとに導入段階の指導を行い、それぞれの生徒が自分で課題を設定して1時間の制作に立ち向かっていくことを期待している。

多くの生徒が平面構成的な表現で主題追求をしていることから、ポイントは表現意図に合った「色の使い方」となる。しかし、1年生時に色相環づくりや明度段階づくりの学習をとおして、色の調整方法を学んでいるにも関わらず、「ポスターカラーのセット」の中のチューブの色からしか色を決定できず、混色して彩度や色相を調整しようという生徒は少ない。そのため、本時では「個性的な色づくり」について学習していく必要がある。また、イラストレーショナルな表現の生徒のためにも、絵画作品などの鑑賞も取り入れて、色による主題表現について気づかせ、作品制作に取り入れさせていきたい。

3 単元の目標

- ・ 今の自分と向き合い、自己と対話しながら自分自身の存在を理解する。
- ・ 表現意図や主題を明確にし、今の自分を表すのに最もふさわしい表現方法を見つけ、工夫して表す。
- ・ 表現意図に応じて構図や色を工夫し、自分の持ち味を生かして表現する。

4 単元指導計画と評価基準(総時間数 12 時間)

※別紙評価基準表を参照

5 本時の目標

(1) 目標

表現意図に迫る色の感情効果を考えながら色相や彩度の調整をし、美しく彩色することができる

(2) 評価規準と判断基準

評価規準

- ・ 色の感情効果を考えながら、色相や彩度の調整をすることができる。(発想や構想の能力)
- ・ 自分のテーマと関連した主題性のある配色を吟味して決定し、美しく彩色することができる。

(創造的な技能)

判断基準

判断基準 評価の観点	A: 十分満足できる	B: おおむね満足できる	C: 努力を要する (具体的対応・手立て)
発想や構想の能力	ア 色の感情効果を考えながら、臨機応変に色相や彩度の調整をすることができる。	ア 色の感情効果を考えながら、色相や彩度の調整をすることができる。	ア 色見本などを使って、イメージしやすいように全体と個別に指導していく。 (見本色コマ、板書)
創造的な技能	イ テーマと関連した主題性のある配色で美しく丁寧な彩色をすることができる。 ウ 水彩絵の具やポスターカラーの画材の特性を理解し、表現意図に応じた画材や技法の選択をしながら工夫して制作を進めることができる。	イ テーマと関連した主題性のある配色で彩色をすることができる。 ウ 水彩絵の具やポスターカラーの使い方を理解し、色むらやほみ出しの少ない彩色をすることができる。	イ 参考作品などから、あまり色数を増やさない方がいいことに気付かせる。【2-3色ぐらいが適当】 ウ 1年生の時の彩色学習を振り返り、丁寧な彩色をしていくよう、個別に指導する。(作品・板書)

(3) 展開

過程	学習内容・生徒の反応等	指導上の留意事項・評価・支援等
<p>課題把握 七分</p>	<p>1 前時の学習を想起し、表現意図と自分の現在の課題点について発表する。 色がなかなか思い浮かばない テーマと色が結びつかない など</p> <p>2 課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>思いや雰囲気効果的に表現できる色づくりについて考えよう</p> </div>	<p>1 表現意図を確認するとともに、現在の課題について認識させる。</p> <p>2 前時の友達へのアドバイスの中にあつた「明るい色」や「やさしい色」とは、具体的にはどんな色なのか考えさせ、それが具体的でないことに気付かせる。</p>
<p>課題追求・制作活動</p>	<p>3 参考作品を比較して、色使いから感じ取れる感情やテーマ性について考える。 ・参考作品について、黒板に掲示された単語カードをそれぞれの作品下に貼って比較するとともに、色相や彩度を調整することで出せる効果について考える。(グループでの話し合い) (生徒の反応) ・色相を変えると個性的になる ・彩度を落とすと落ち着いた感じが出せる。</p> <p>4 教師の補足説明を聞いて、今日の課題についての取り組みの意欲と見通しを持つ。 ①ためし塗りの必要性 ②類似色相だけでなく意外な色同士の混色もやってみる</p>	<p>3 参考作品の色使いの違いによる感情やテーマ性を感じ取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・絵の具セットのチューブの色だけから制作された作品 ・色相や彩度を調整して制作された作品</p> </div> <p>・既習内容の想起により、色使いにふさわしいことばや主題について気付かせる。 ① 色彩の学習(色の3要素・テーマ性のある配色練習) ② ベン・シャーンの鑑賞(主題と色の関係) ・チューブから出された色だけでなく、色相などを調整することにより、様々なイメージが表現できることに気付かせる。</p> <p>4 実際に彩色する前に、試行錯誤して色を吟味していく必要があることを告げる。 <準備> ・色見本、試し塗り用の紙切れ</p>
<p>三三分</p>	<p>5 課題解決のための具体的な知識や方法をもとに、色を吟味しながら彩色を進める。</p>	<p>■色の感情効果を考えながら、色相や彩度の調整をすることができる。(発Bア・試し塗りの様子) ※C:色見本などを使って、イメージしやすいように全体と個別に指導していく。 (見本色コマ、板書) ■テーマと関連した主題性のある配色で彩色をすることができる(創Bイ・作品) ※C:参考作品などから、あまり色数を増やさない方がいいことに気付かせる。【2~3色ぐらいが適当】 ■水彩絵の具やポスターカラーの使い方を理解し、色むらやはみ出しの少ない彩色をすることができる。 (創Bウ・作品) ※C:1年生の時の彩色学習を振り返り、丁寧な彩色をしていくよう、個別に指導する。(作品・板書) ※:進度が遅れている生徒への支援 ・スケッチブックに描いてあるものを使ってとにかく一つの組み合わせを作らせてみる。 ・教師が用意した図形のパーツを組み合わせたたり真似て書いてみたりすることを試させて、作品づくりに見通しを持たせる。</p>
<p>まとめ 一分</p>	<p>8 まとめと次回の予告 ・本時の学習を振り返り、実際に色をさまざまに工夫してみた感想を発表する。 ・本時のまとめとして、次時への意欲化を図る。</p>	<p>8 本時の学習課題に対する追求がどうだったか、色の吟味や調整によってより、自分のイメージに近づくことができたか、振り返らせる。 <準備>学習カード</p>

(4) 板書計画

<p>CDジャケットの制作 (私のテーマソング)</p> <p>今日の課題</p> <p>思いや雰囲気を効果的に表現できる色づくりについて考えよう</p> <p>明るい感じの色</p> <p>優しい感じの色</p> <p>前回出たキーワード</p>	<p>参考作品</p> <p>参考作品</p> <p>単語カード</p>	<p>チューブの色だけでは様々なイメージを表現するには不十分である!!</p> <p>色の吟味の必要性 類似色相での調整 意外な色を混色 → 試し塗り</p>	<p>キミのカラーはどれだ!?</p> <p>色見本の掲示 (チューブカラーに矢印)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------